

### 共通テーマ「法政大学の体育授業について」 ： 法政大学、体育授業の推移

笠井, 淳 / KASAI, Atsushi

---

(出版者 / Publisher)

法政大学体育・スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 = The Research of Physical Education and Sports, Hosei University

(巻 / Volume)

30

(開始ページ / Start Page)

97

(終了ページ / End Page)

97

(発行年 / Year)

2012-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007816>

## 法政大学、体育授業の推移

笠井 淳 (法政大学)  
Atsushi Kasai

2002年に解体された第一教養部における体育授業について振かえてみる。

1970年代、保健体育授業は、基礎体育・スポーツ種目・体育講義・保健衛生の4科目4単位必修で展開されていた。

当時、市ヶ谷の文系5学部の保健体育授業は、川崎校地で行われていた。

基礎体育・スポーツ種目とも通年1単位、2つの講義も半期1単位で、合計4単位の授業であった。1年生は指定された曜日に、川崎校地へ出かけ、実技2コマ、講義1コマ、合計3コマを履修した。

1980年代半ば、多摩校地が完成し、経済・社会の2学部が多摩へ移転する。この2学部は第一教養部から離れ、縦割りと言われる、学部独自の授業を展開するに至った。体育施設の完成により、体育授業も川崎から多摩へ全面的に移転した。

この頃は、基礎体育・スポーツ種目は通年1単位、講義は体育講義で半期2単位、合計4単位必修であった。

その後のカリキュラム変更により、保健体育科目は2単位が必修となる。当時の議論を思い出すと、どのような授業展開ができるか、かなり意見のぶつかりあいがあったように記憶している。結論は講義科目を廃止し、実技2科目、スポーツ総合・スポーツ種目、通年で2単位となった。(背景には、講義だけで2単位履修できるが、その場合実技を受けなくて良い学生が出る。そこで実技の中に講義も取り入れる事ができると考え、講義を廃止した。)

この多摩移転当時から、学生より、交通費と通学時間の負担が大きすぎるとの不満が多くあがっていた。

2002年に正課体育受講生を対象に、スポーツに対する意識調査を実施した。その中で多摩校地までの交通費の負担に関する質問があり、約9割の学生が負担を感じていた。

この調査結果、及び2003年度から導入される Semester性を考慮し、保健体育のカリキュラムの変更が行われた。

必修2単位はそのまま、スポーツ総合・スポーツ種目、ともに半期1単位とし、半期で2単位履修が可能となった。これにより学生の負担は半減したが授業コマ数も半減した。

さらに、2008年度より多摩校地で開講していた授業を全面的に市ヶ谷校地へ戻す取り組みが始まった。1つには、市ヶ谷総合体育館と富士見体育館の2か所が使えることであった。議論は、多摩から市ヶ谷へ移ることが大前提であり、保健体育授業をどうするかではなかった。同じコマ数を維持することは、どう考えても不可能であり、最終的に現在の形式となった。これにより、学生の交通費の負担は解消された

が、保健体育授業としての問題点は多く残った。

1970年代4単位必修が現在2単位必修、当時半期6コマの授業が現在半期1コマに大幅な減となった。

今後の課題として、どのような授業形態をとれば学生のニーズに答えられるか？保健体育教員全員で意見を出し合えばと、考慮している。

年代がかなりあやふやで、間違いの可能性があります。ご意見を頂き、間違いは訂正したいと思います。また、何人かの先生方にご協力いただきました。感謝いたします。